

「与論島の活性化のために」

法文学部人文学科多元地域文化コース 1年

学籍番号 1117640591 鳥丸葵

私は今回初めて与論島を訪問したが、今まで見たことのない島の風景の美しさにとても感動した。特に、島を囲むエメラルドグリーンの海は美しく、島に滞在した4日間は毎日砂浜に行った。このレポートでは、島の講義で学んだ与論島の現状や実際に与論島で生活して思ったことなどを踏まえて、与論島の活性化について自分なりの考えをまとめようと思う。

初めに、与論島について簡単にまとめてみようと思う。与論島は鹿児島県の最南端に位置する人口約5,200人の島である。1972年に沖縄が返還されるまでは日本の最南端の島として観光ブームが到来し、昭和54年には15万人もの来島者があった。しかし、沖縄復帰や海外旅行の手軽さなどから観光客は減少した。近年ではメディアを活用した広報活動により増加傾向にあり、2016年には7万人となった。人口は少子高齢化が進んでいるが、減少率は少ない。島内に産科医がいなかったため島外出産支援をおこなっている。

私は島を活性化するにはどうしたらよいか色々と考えたが、やはり観光振興による活性化が一番効果的だと思った。しかし課題点もいくつかある。まず、交通アクセスがあまりよくない点だ。鹿児島からフェリーで約20時間というのは正直きつかったし、空路は鹿児島空港、奄美空港、那覇空港からしか直行便はない（奄美空港からの便は曜日によって沖永良部経由で運行）。羽田からの観光客のほとんどは沖縄経由で来るそう。つまり、交通アクセスの悪さを上回る、沖縄にはない与論島だけの魅力を売らなければならない。そこで、与論島はあまりリゾート化が進んでおらず、島本来のゆったりとした時間が流れているのが良いところだと思った。与論島のありのままの姿を広めるために、例えばInstagramを利用するとよいかもかもしれない。最近テレビや雑誌で、場所や料理を「インスタ映えする〇〇」という形で紹介することが多い。与論島の自然や食べ物も「インスタジェニック（フォトジェニックとInstagramを合わせた造語）」なものとしてメディアに取り上げたり、実際に与論島公式のInstagramアカウントを作成して投稿するとよいと考える。

また、ゆるキャラを利用した広報活動も島の活性化につながると考える。ゆるキャラはプロモーション活動を行い全国的に知られるようになることで、そこに目を付けた企業がグッズ展開を行い、そのキャラクターの使用料が自治体に入る仕組みになっているそう。また、間接的に地元のPRとなるため、経済波及効果は大きくなるそう。実際、滋賀県彦根市の「ひこにゃん」や奈良県の「せんとくん」は1000万円～3000万円

の収入になるそうだ。調べたところ、与論島には公認のゆるキャラは存在しないということが分かったので、ぜひゆるキャラを制作し、メディアでの活動や港での観光客の出迎え・見送りなどを行ってみてはどうだろうか。

これまで観光業からの島の活性化について考えを述べてきたが、人口減少が進んでしまっただけではそもそも島の産業が成り立たなくなってしまう。そこで、総務省が人手不足の解消や移住促進などを狙いとし、2017年から始めた「ふるさとワーキングホリデー」の実施を提案する。この制度により都市に住む若者たちが地域に滞在しながら働くことで、一時的に島の人手不足を解消し、消費を押し上げることが可能になる。また、島の実情を知ることで都会の人の目線から島の活性化についての意見が得られたり、将来的な移住の促進にもなると考える。参加者は働きながら生活することで、普通の旅行ではできないリアルな田舎暮らしを体験することができる。島民にとっても参加者にとっても良い制度であると考えている。

以上が与論島の活性化のための私の意見である。今回初めて与論島に滞在して、海の美しさや島のゆったりとした雰囲気が本当に素晴らしい島だと思った。もっと多くの人に知ってもらいたいと思ったし、私も今度は家族と一緒に普通に旅行に行きたいと思った。私たちの意見が少しでも与論島のさらなる発展につながることを祈る。

鳥丸 葵

◆ 参考

http://arterial.tv/yuruchara-economic_effect/ (ゆるキャラ)

<http://www.soumu.go.jp/furusato-workingholiday/> (ふるさとワーキングホリデー)